

熊本市南区のまちづくり支援 —区まちづくりビジョン策定ワークショップを中心に—

田中 尚人¹・岩田 圭佑²

¹熊本大学 政策創造研究教育センター 准教授

²熊本大学 政策創造研究教育センター 特任助教

平成24年4月1日より政令指定都市に移行した熊本市は、中央・東・西・南・北の5区の区割りとなった。筆者らは、このうち市域の南部を占める南区より、平成25年度の熊本市第6次総合計画の中間見直しに反映される予定の「区まちづくりビジョン」* 策定を中心に、まちづくり事業の支援を請け負った。本研究の目的は、筆者らのまちづくりに関するアクションリサーチの実践を、地域住民と行政との協働のもとで展開される地域の風土を活かしたまちづくりの基礎資料とすることである。そのため、筆者らが請け負ったまちづくり事業支援における、筆者らのフレームワークの設計意図、その実施プロセス、振り返りにおける地域住民と行政職員の意識形成を分析した。

* 策定開始時は「区振興ビジョン」の名称であったが、素案完成時に内容を鑑み現在の名称に変更された。

1. 研究の背景と目的

(1) 熊本市南区の概要

平成24年4月1日より政令指定都市に移行した熊本市は、中央・東・西・南・北の5区の区割りとなった。熊本市の人口は、約73万4千人（平成22年国勢調査）で、全国の都市で17番目、面積は約390km²で、県内人口の約40%が集中するプライメイトシティである。南区は、熊本市域の南部に位置し、人口は約12万3千人（5区中4番目）面積は約110km²（5区中2番目）、区域の中心部を緑川が流れ、西は有明海、南は雁回山に接する自然環境が豊かな区で、平成3年（1991）に飽田町、天明町と合併、平成20年（2008）10月に富合町、平成22年3月に城南町との合併を経て、現在の区域が形成されている。

南区は、図-1に示すように19小学校区を有しており、校区単位のまちづくりを基本に、それらを図-2に示した幸田・南部・飽田・天明・富合・城南の6地区（区役所、総合出張所等エリア）に設置したまちづくり交流室で統括し、まちづくりを実践しようとしている。高齢化率は、21.8%（5区中3番目）で全市平均をやや上回っており、人口は微増している。表-1に、6地区の統計的諸元を示したが、幸田地区は、流通業務団地を抱えるなど都市的な土地利用が見られ、南部地区は古くから緑川舟運の主要河港として発展してきた川尻を含み、歴史と文化が豊かな地区である。飽田地区、天明地区は、ともに有明海に面し、一次産業が盛んな地区である。富合地区は、南区役所やJR九州新幹線の車両基地が立地し、南区の中心と言え、城南地区は、6地区内で最大の面積を有し、旧城南町としてのまとまりを持った地区である。



図-1 南区の小学校区

図-2 南区内の地域区分

表一 1 南区の 6 地区別諸元

	人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)	年少人口(0から14歳)	老齡人口(65歳以上)	世帯数(世帯)
幸田地区	30,843	9.15(8.3%)	3370.81	5,545(17.8%)	5,269	12,153
南部地区	44,069	12.97(11.8%)	3397.76	7,355(16.6%)	8,830	18,405
鮑田地区	11,900	12.05(11.0%)	987.55	1,789(14.1%)	2,833	4,469
天明地区	9,036	19.38(17.6%)	466.25	1,004(10.8%)	2,912	3,271
富合地区	8,891	19.59(17.8%)	453.85	1,262(14.2%)	2,430	3,252
城南地区	20,678	36.88(33.5%)	560.68	2,862(13.8%)	5,038	7,702
南区全体	122,600	109.86	1115.96	19,817	27,312	49,252

※アミは、6地区中最大(最高)。白抜きは、6地区中最小(最低)。

(2) 熊本市南区のまちづくり支援の概要

平成24年3月末、筆者らの元を、現南区長の永目氏らが訪れ、平成25年度に中間見直しを行う熊本市第6次総合計画に反映される予定の「区まちづくりビジョン（概ね10年後の南区の将来像を描く）」策定を中心に、南区のまちづくり事業を支援するように要請があった。南区からの主な要請内容は、「区まちづくりビジョンに、地域住民の意見をできるだけ反映させるために、ワークショップを中心に据えたい」というものだった。筆者らは、豊かな歴史と自然を有する南区のまちづくりに対して、上記の基本方針が適合すると考え、以下のまちづくり支援事業を計画した。

- ①年間を通じた、まちづくり事業に対するコンサルティング
- ②懇話会やアンケートを通じた地域住民の意見集約
- ③ワークショップの運営
- ④まち歩きに関するコンサルティング
- ⑤地域住民の意見に基づいた振興ビジョン策定

(3) まちづくり事業に対する基本方針

筆者らは、「まちづくり」とは、従来のトップダウン型の都市計画のイメージに対し

て、ボトムアップ型の、地域住民、行政（市町村や県、国等）、アソシエーションの各ステークホルダーが積極的に参加し協働する、法制度のみならず様々な地域資源を活用しながら進める、終わりのない地域環境改善活動と定義している。

筆者らが、熊本市南区のまちづくり事業支援において、意図した基本方針は、以下の通りである。

- 1) 南区のまちづくりは、南区の地域住民と南区役所との協働のもとに実践する。

ごく基本的な事項であるが、地域住民、行政、アソシエーション（筆者らを含む）の3つのステークホルダーの役割を確認し、適切な協働体制をつくる意識を共有した。特に、総務企画課の方々とは、常に立場や役割を確認する体制をつくった。

- 2) 地域住民から頂いたまちづくりに関する意見は全て受け止める。

懇談会やアンケート、ワークショップなど、様々な場所で、地域住民の方々のまちづくりに対するご意見を頂くのだが、これらを「全て無駄にしない」、一度「全て受け止める」ことを基本方針に据えた。

- 3) 南区まちづくりに、南区役所の全員が取り組む。

私たちは、「まちづくり」をまちづくりの実践を担う担当部署のみが取り組むのではなく、「南区役所の職員であれば誰もが、何らかのかたちでまちづくりに関わっているのだ」という意識を持っていたくことをお願いした。地域住民からみれば、担当であろうとなかろうと、南区役所の職員は南区役所の職員である。南区役所職員全員が、南区の将来像や「区まちづくりビジョン」に対して理解を示し、南区のまちづくりに関わるワークショップへの参加や、協力を依頼した。

本研究の目的は、筆者らの熊本市南区のまちづくりに関するアクションリサーチの実践を、地域住民と行政（基礎自治体）との協働のもとで展開される地域の風土を活かしたまちづくりの基礎資料とすることである。そのため、筆者らが請け負ったまちづくり事業支援における、筆者らのフレームワークの設計意図、その実施プロセス、振り返りにおける地域住民と行政職員の方々の意識形成を分析した。

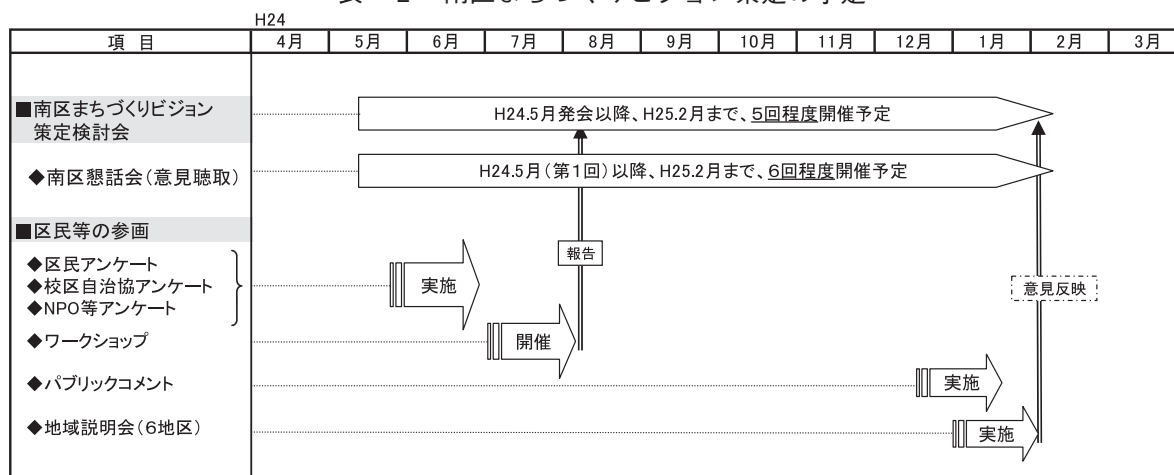
2. まちづくりに係るチームづくり

本章では、地域住民とともに南区役所と熊本大学が実践したまちづくりの展開を、チームづくりの段階からワークショップへと至るまで概要を示した。

(1) まちづくりにおける区役所の役割

4月19日、南区役所総務企画課との第一回目の打ち合わせ時に、私たちに表2のような南区のまちづくりビジョン策定に関するスケジュールが示された。平成24年度は、田中が6月、7月の二ヶ月間渡仏することが決まっていたので、この期間内に実施される予定の「6地区におけるワークショップ」は、熊大岩田を総合ファシリテーターに据え、最も地域住民の方々とのやり取りが必要とされるテーブルファシリテーターには、南区役所職員の方々の有志（後に、WSでは「班長さん」と呼ばれることになった）を募ることにした。その他、熊大の学生が各テーブルのサブ・ファシリテーターとして補助することになった。

表－2 南区まちづくりビジョン策定の予定



永目区長からは「平成24年度は熊本市南区のまちづくり元年、まずは『南区を知る』ことから始めたい」という最も基本的な本年度の活動方針を示されていた。以上のような経緯で、「まちづくりにおける区役所の役割」について話し合った結果、私たちが提示させて頂いた南区におけるまちづくりの3つの基本方針が、1章にて示した、1) 地域住民と行政との協働、2) 全ての意見を受け止める、3) 南区役所全員参加、であった。区役所は、熊本市が推進する都市政策のうち、最も地域住民との協働を必要とするまちづくり政策を、その基礎単位ともいえる小学校区コミュニティと共有し、校区単位のまちづくり活動を6地区のまちづくり交流室で束ね、熊本市のまちづくり政策に反映させる、前線基地であると考えた。

(2) まちづくり講演会

このような基本方針に関する合意の上で、5月8日に、田中が南区役所職員の方々に対して、職員研修というかたちで、まちづくりに関する講話をする機会が設定された。そこで、筆者らがこの講話の際に提案したのが、「南区を知るために、まず、南区役所職員のみennaを知る」ことを目的としたWSだった。

南区まちづくりキックオフWSの目的：

- ・南区役所の職員の方々に、「まちづくり」とは何か、を理解してもらう
- ・南区役所の職員の方々に、まちづくりに参加してもらうきっかけをつくる
- ・南区振興ビジョンづくりのために、「南区をよく知る」第一歩とする

1) まちづくり講話「南区のまちづくりに取り組むために」(約15分)

田中の自己紹介の後、まちづくりの定義、まちづくりにおける地域住民、行政、アソシエーションの3つのステークホルダーの関係を説明した。そして、南区で実践するまちづくりには、南区役所職員全員が、それぞれの専門性を活かしながら、横の連携をはかり「行政参加」する意識が重要である、と述べた。最後に、後半のWSのテーマとなる、「南区のキャッチフレーズ」を行政職員が共有する意義について述べた。

2) 南区を知るための「アイ乗り列車ワークショップ」(約45分)

- ・各自、まず自己紹介カードを作成 ①名前、②所属、③得意技、④〇〇南区
- ・じゃんけん列車の要領で、1分間のディベート

ディベートのテーマは、「〇〇南区（キャッチフレーズ）」

- ・「そっちに乗ってこ！」と思った方が親に、子は後ろに繋がる
- ・列車が、3～4台になるまで
- ・列車毎の1分間プレゼン「〇〇南区」とそうなるために取り組むべき3つのお仕事

3) 振り返り

WS最後の10分は「振り返り」の時間に設定し、各自「アイ乗り列車ワークショップ」や、南区のまちづくりと自分の関わり、などについて振り返って頂いた。約40名の参加者の方々の振り返りでは、「同じ南区役所職員なのに、考えていることが多様で面白かった」、「いつもの職場を超えて、南区役所の方々と知り合えてよかった」、「まちづくりに対して、もっと積極的に考えようと思った」などの意見が聞かれ、南区役所職員の方々のまちづくりに対するモチベーションを向上させることができたことが、まず第一の成果であった、と考える。

(3) 懇話会における意見集約

平成23年度には、熊本市の5つの区にて、区のまちづくりを審議する「区民会議」設定の検討がなされていたそうだが、結局見送られ、平成24年度のビジョン策定の1年間、地域代表等にまちづくりに関する意見を直接うかがう場として、「南区ビジョン策定まちづくり懇話会」が設定された。この第1回が、5月18日に設定され、田中が学識経験者として参加した。他に、各（総合）出張所管内代表、農業・漁業関係者、文化関係（伝統文化活動者）者、まちづくり関係者、子ども関係者、高齢者福祉関係者、管内事業者等が参加した。

第1回懇話会では、直接的には6地区で開催される予定であったまちづくりWSにおいて、地域住民の方々に語り合ってもらい、テーマ選定が主題となった。懇話会の場においても、永目区長の「南区を知ろう！」をメインテーマとして掲げ、田中がファシリテーター的な立場で、懇話会参加者の自己紹介と、今後南区のまちづくりの現場において重要と考えられる内容について話し合った。懇話会参加者同士のコミュニケーションが図れたこと、ワークショップのテーマについて、ある程度共有（図-3）することができ



図-3 懇話会で出されたテーマ

た。

懇話会の概要は、以下の通りである。第1、4、5、6回は同じメンバーで実施する。

『第1回懇話会』 5月18日（金）14：00 各分野関係者11名

『第2回懇話会』 6月20日（水）19：00 まちづくり団体等14名

『第3回懇話会』 6月23日（土）14：00 南区管内事業者等15名

『第4回懇話会』 10月2日（火）10：00 各分野関係者10名

『第5回懇話会』 11月6日（火）9：30 各分野関係者12名

(4) アンケートにおける意見集約

アンケートは、南区のまちづくりに対する地域住民の方々のご意見をなるべく広く、分け隔てなく収集するための手法であり、以下の3種類のアンケートが実施された。

①区民アンケート

- ・無作為抽出した20才以上の南区民3,000人を対象
- ・郵送法により実施

※5月23日発送、回答数1,020通、回答率34.0%

②校区自治協議会アンケート（ヒアリング）、

- ・南区管内19校区自治協議会を対象

※校区自治協議会アンケートは6月13日に配布し、全て回収

③NPO等アンケート

- ・南区管内に所在するNPO等（46団体）を対象

※NPO等アンケートは5月29日に発送し、回答数18通、回答率39.1%

詳細な分析は本研究の主題とは異なるが、アンケート項目の中で、南区の魅力と課題、については各人の居住思考と合わせてクロス集計し、ワークショップのテーブルテーマとして相応しい意見を抽出した。なお、その他に南区のホームページやフェイスブック、市政だよりやニューズペーパーの発行などを通じて意見集約を行っている。

3. ワークショップの運営と学び

本章では、本年度の熊本市南区のまちづくりの中心となったワークショップ（以下、WSと略）に関して、WSの設定意図と準備内容、実施プロセス、その成果と学び、について考察した。

(1) ワークショップのテーマ

懇話会、各種アンケートなどを通じて得た、区民の方々のまちづくりに対する意見やアイデア、南区の魅力や課題をもとに、南区管内6地区の総合出張所等において実施するWS「南区のたからもの」にて、市民の方々に議論して頂くテーマを選定した。

筆者らは、どのテーマも、南区民に関係し、ひと・まち・しくみについて議論できるテーマを選んで、WSにおいて、そのテーマの課題と解決方法について議論することを考え、あえて、毎回議論されるであろう「人・組織」「自然環境」「歴史・文化」の3素材は、テーマとしない方針で、図-4のような7テーマを設定した。

最終的に南区から提示されたテーマは、以下の7項目であった。

- A. 地域のつながり
- B. 自然・環境
- C. 健康
- D. 福祉・子育て
- E. 防災・防犯
- F. 食と農・漁業
- G. 歴史・文化・交流

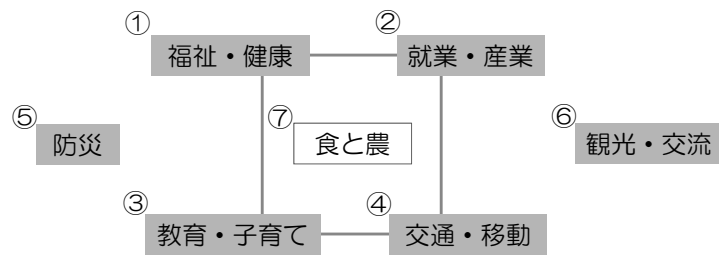


図-4 初期提案テーマ

(2) 6 地区ワークショップ「南区のたからもの」の運営

各WSは、一回2時間、以下のような内容で、計7回実施された。

- ①テーブルテーマについての魅力と課題
- ②南区の課題解決策、将来像
- ③南区のたからもの

『第1回 ワークショップ（南部）』

7月3日（火）19：00 南部公民館 一般参加者35名

『第2回ワークショップ（飽田）』

7月5日（木）19：00 飽田公民館 一般参加者24名

『第3回ワークショップ（幸田）』

7月6日（金）19：00 幸田公民館 一般参加者33名

『第4回ワークショップ（富合）』

7月7日（土）19：00 アスパル富合 一般参加者44名

『第5回ワークショップ（天明）』

7月10日（火）19：00 天明公民館 一般参加者41名

『第6回ワークショップ（城南）』

その1 7月26日（木）19：00 城南総合出張所 一般参加者27名

その2 8月3日（金）19：00 城南総合出張所 一般参加者20名

※当初予定していた、7月12日未明に、九州北部豪雨災害が発生したため

(3) 6 地区ワークショップ「南区のたからもの」の運営

1) WSの目的

南区まちづくりワークショップ「南区のたからもの」は、南区まちづくりビジョン策定に向けて、区民が主役となって意見交換をする場である。また、目的としては、南区の将来像を区民と行政が共に考え、議論して、まちづくりのビジョンを見出すことである。本年度の南区のまちづくりの目標「南区を知ろう！」をスタッフ一同、よく理解してWSの運営に当たること。

2) WSの準備

- ・テーマごとにテーブルを準備（7テーブル）各5～10名（班長・副班長を含む）
- ※参加者には、興味を持ったテーマのテーブルに着座してもらう
- ・プロッキー、名札、自己紹介カード、くじ引き、赤ポストイット、青ポストイット、模造紙、A4の紙、南区全体マップ

3) WSの流れとファシリテーターの役割

Step-0: 開始前

【班長の仕事】

- ①席に着いておき、そのテーブルに来た人に自己紹介カードの記入方法を説明。
※名前、南区の好きなところ・魅力、本テーマについて話したいこと。
- ②WSの内容を簡単に説明して、事前に考えを持っておいただく。
- ③赤（Step-2で使用）・青（Step-3で使用）ポストイットをそれぞれ2枚ずつ一人ひとりに事前に配っておき、自分が話したいことを書いてもらう。

Step-1: 自己紹介（10分）

【班長の仕事】

- ①自己紹介カードを使って、時計回りに一人ひとり自己紹介してもらう。
- ②率先して拍手する。
- ③余った時間は、別の質問をする。（例：特技や職業など）和気あいあいと、会話を途切れさせない。

Step-2: テーマについて思うこと（魅力や課題など）（20分）

【班長の仕事】

- ・事前配布した2枚の赤ポストイットに、自分がテーマについて思うことを簡単に（キーワード程度を）書いてもらう。そして、自分で説明してもらう（2～3分）
- ①今度は反時計回りで各テーマに対する考えを述べてもらう（南区だけに断定するのではなく、そのテーマについての考え）⇒くじ引きで話す人を決めても良い。
 - ②班長は事前にそのテーマにおいて、どんな考えがあるか想定しておき、行き詰ったときなどに、「こんな案についてどう思いますか」など題を出す。

【副班長の仕事】

- ①赤ポストイットに簡単なエッセンスを取り出し記入する。（内容を発言者に確認）
- ②意見を付箋にまとめ、模造紙に貼り、グループ別に分けたりする。
※直接南区全体マップに貼ったり、書き込んだりしてよい。
- ③意見を書くことだけでなく、テーブルの運営など班長の手助けする。
- ④意見が南区全体の内容か、地域ごとの内容なのかを、南区全体マップに貼ったり、矢印や文字など直接書き込んでいく。

Step-3: 将来像（なりたい地域像）のアイデア（30分+10分）

今度は、青ポストイットに自分が話したテーマに関する地域の将来像について語る、思いつかない人は書かなくてもよい。他の人の意見を聞いた後で、思いついたら書く。

【班長の仕事】

- ①テーマについて、議論する。
 1. 「こうなったらいいな」などの将来像
 2. 今ある課題などの解決案
 3. 自分が共感する他の人の考えや気づいたこと
 4. お気に入りの一枚（考え）
- など自由に意見を出してもらう。アイデア出し型からディスカッション型へ移り、南区全体マップを活用して（直接書き込んだり）話し合いを進める。

- ②最後に班で話し合っ、意見の中で「これは大事だ！」と同意できるものを赤マジックで囲む（囲むポストイットはいくつでも構わない）※簡単な見出しを付ける。
- ③各テーマの「キャッチフレーズ」を目立つよう大きく南区全体マップに書き入れる。

【副班長の仕事】

- ①青ポストイットに簡単なエッセンスを取り出し記入する。（内容を発言者に確認）
- ②意見を付箋にまとめ、模造紙に貼り、グループ別に分けたりする。
※直接南区全体マップに貼ったり、書き込んだりしてよい。
- ③意見を書くことだけでなく、テーブルの運営など班長の手助けする。
- ④意見が南区全体の内容か、地域ごとの内容なのかを、南区全体マップに貼ったり、矢印や文字など直接書き込んでいく。

Step-4：振り返り（20分）

【班長の仕事】

- ①参加者にA 4の紙に、各自の名前と、各班で話し合ったことで気づいたことや将来像、まとめなど「南区のたからもの」として記入してもらう。
 - ②記入した「たからもの」を各班内で一人ひとり発表してもらう。
 - ③班長が簡単に（1分以内で）各班で話し合ったことのまとめを述べる。
 - ④アンケートを最後に記入してもらう。
- ※全体発表まえに各班ホワイトボード前にて記念撮影。

(4) ワークショップにおけるファシリテーターの心構え

- ・本WSでは、テーブルファシリテーターを「班長」と呼び、区役所の職員の方々に、テーブルファシリテーターのアシスタントを「副班長」と呼び、熊本大学の学生の方々に担当して頂きます。
- ・ポイントごとに、全体ファシリテーター（岩田）から説明があるので、班長はテーブルの人と一緒によく聞いて、「では、こういうことなので、やってみましょう」と促す役目と考えて下さい。
- ・話しをまとめようと頑張り過ぎないでください。また、参加者に無理に話してもらう必要もありません。（話す時間は目安です。上手く言えない方は、班長が覚えておいて、後で話を振ってみるなどして下さい。）
- ・副班長は参加者の方が話しているときは、メモ取りを頑張ってください。ポストイットで地図が埋まるぐらいを目標に。
- ・ワークショップの目標のひとつは「一つの意見もつぶさないこと」です。できるだけ多くの意見を拾って下さい。
- ・班長は、自分が担当するテーマについて、どんな話題がでそうか、そのテーマについて思うことなど事前に想定しておいて下さい。
- ・区民の方たちが使用する筆記具はプロッキー(マジック)なのでWS前に説明と徹底をよろしく願います。（書いて頂いた意見が、全員に見えるように）
- ・発言者に班長に対して話すのではなく、班全体の人の顔を見て話しをするよう促す。
- ・WS終了後片付けを素早く終え、「反省会」を行う時間を十分確保します。
- ・反省会では、WSの現場の雰囲気を知りたいので、参加者の①自己紹介、②テーマにつ

いて思うこと、③将来像のアイデア出し、④振り返りとお土産のときの状況を覚えておいて下さい。

(5) 6 地区におけるワークショップの成果

6 地区におけるWSでは、毎回振り返りの際に、参加者の方々に「自分がどのようにWSに参加していたのか」そのWS中の意識を曲線で表してもらい「振り返りシート」に記入して頂いた。このシートを分析することで、WSのどの部分で参加者が積極的に意見を出し、議論に参加できているのか、また、とまどい、不満を持ったり、混乱したりしているのか、を把握することができた。その結果を、次のWSでは解消するように努め、計7回のWSを実施していく中で、WS運営が上達できた。また班長・副班長も、複数回ファシリテーションを経験することで、技術を身に付けることができた。

「南区を知る」「一つの意見もつぶさない」「参加者・運営者（南区役所・熊本大学）が一体となる」という基本的な目標は、達成されたと考えている。

4. 中高生まちづくりワークショップの運営と学び

6 地区のWS終了後、若年層のまちづくりに関する意見をきくため、中高生まちづくりWS「夢caféーこの夏、南区の未来を、私たちがつくる」を開催した。本章では、中高生WSを運営した際のフレームワークと、その成果、学びについて整理した。

(1) 中高生ワークショップの概要

日時・場所：8月4日（土）14時から2時間程度・南区役所3階ホール

参加者：南区管内の8中学校から2名ずつ計16名、管内高校生3名

【班編成】 1班 託麻+日吉 2班 城南+力合
3班 飽田+天明 4班 富合+下益城城南

※当初、高校生は4名の予定で、テーブルファシリテーターをお願いした

目的：・南区在住の中高生に、まちづくりWSを体験してもらう

・中高生の考えを、南区振興ビジョンに活かす

・「夢」を現実にする、真面目に、楽しく話し合う技術を習得してもらう

WSでの約束事：

「他人を否定しない」、「自分の言葉で楽しく話す」、「人の話を聞く」

テーマ：①南区の○(良いところ)と×(悪いところ)

②南区の×を○にするには

③×を○にするため、この夏、みんなで取り組むこと

(2) 中高生ワークショップの運営

Step-0：挨拶と説明（15分）

Step-1：第1部 南区の○と×（良いところ、悪いところ）40分

・ワールドカフェ方式※別途説明の話し合いを3ラウンド 各10分

・各ラウンドの話の進め方は、ある程度田中が説明

まず一巡目は自己紹介と○と×、二巡目以降は、そのテーブルの議論を引き継いで

・中高生が、全員と意見交換をすることが目的「みんな友達に！」

Step-2：第2部 宝物を育てよう（班の○と×、×を○にするために）40分

- ・近い中学校2つを同じ班にして、4班編成（事前）
- ・班の○と×を決め、（10年後には）×を○にするための方策を話し合う
- ・区長にプレゼン（各班3分）区長賞、次長賞2つ、田中賞、計4賞を贈呈
- ・プレゼンには、ポスターを使用。模造紙を4等分に折った上から3つを使って○と×、そして×を○にするために、の3つを発表（一班3分）
- ・自分たちで、拍手による評価を行うことも視野に！競うことは大切

Step-3：第3部 この夏、私たちが南区を変える 25分

- ・プレゼンした×を○にするために「この夏、自分たちは何をする？」を提案する
- ・賞を贈呈した4名が班に加わる。

(3) 中高生ワークショップの成果

南区のまちづくりに関して、若年層の意見を聞くために開催したこのWSは、中高生の意識の高さに助けられ、たいへん素晴らしい成果が得られた。

南区の○と×は、大人のWSでも見られた意見も多く、市民の意見集約の精度が向上した。さらに、中高生WSでは最後に第3部として「この夏、わたしたちが南区を変える」と題して、実際に×を○にするために活動するアクションプランの策定まで行うことができた。この第3部には区長、二人の次長、そして田中もファシリテーターとして各テーブルに入ったが、中高生たちの柔らかい頭で、実際に南区の課題を解決する提案が次々に出てきたことには驚き、そして頼もしく感じた。

WS終了後、暑中見舞いとしてWSの感想を教えて下さいとお願いしたところ、たくさんの感想が寄せられた（図-5）。



図-5 中高生WS参加者の感想

5. まちづくりに対する意見集約と区まちづくりビジョンへの反映

南区の市民の方々の意見を集約し、区まちづくりビジョン（案）が以下のように策定された。

『みんなでつなぎ、みがき、広げる いきいき暮らしのまち 南区』

- | | |
|-----------------------|----|
| 基本目標1：農と漁業を誇れるまち | ：F |
| 基本目標2：歴史・文化を育むまち | ：G |
| 基本目標3：自然と共生した住みやすいまち | ：B |
| 基本目標4：みんなが健康で元気なまち | ：C |
| 基本目標5：地域ぐるみで子どもを育てるまち | ：D |
| 基本目標6：安全・安心なまち | ：E |

これらの基本目標は、WSでテーマとして掲げられた7項目「A. 地域のコミュニティ」「B. 自然・環境」「C. 健康」「D. 福祉・子育て」「E. 防災・防犯」「F. 食と農・漁業」「G. 歴史・文化・交流」に基づいて導出されているが、協議の過程で「A. 地域の

コミュニティ」と「G. 歴史・文化・交流」の「交流」については、全ての基本目標に関わると考え、敢えて基本目標という形では示さなかった。

また、これらの基本目標を、市民・行政・アソシエーションが協働して実現していくための行動指針を設定した。

- ①知る：それぞれの立場で、南区の現状や魅力を知るよう努める
- ②集まる：誰かと共に活動し、組織づくりやネットワーク化を進める
- ③始める：できることから、実際に取り組み始める
- ④伝える：様々な取り組みを地域内外に広げ、将来世代につなげる

この4つの行動指針は、各主体が①から④、さらに④から再度①へと繋がるように活動するとともに、3者が連携し活動を広げていくための仕組みとなっている。

以上述べたように、今回、熊本市南区のまちづくり支援として、南区役所、南区民の方々とともに、「南区を知ろう！」というスローガンを掲げ、懇話会やアンケート、ワークショップなどを通じて「地域住民と行政の協働の下に」市民の方々のまちづくりに対する意見を収集し、「一つの意見もつぶすことなく」6つの基本目標と4つの行動指針に、まとめあげることができた。

謝辞：本研究には、様々な方々にご協力頂きました。永目工嗣区長をはじめ、熊本市南区役所の皆様、懇話会やワークショップに参加して下さった南区民の皆様、そしてともに運営に携わった熊本大学工学部社会環境工学科景観デザイン研究室、地域風土計画研究室の学生諸君には、たいへんお世話になりました。記して感謝の意を表します。

【参考文献】

- 1) 知の編集術 発送・思考を生み出す技法、松岡正剛、講談社、2000.1.
- 2) 参加するまちづくり ワークショップがわかる本、伊藤雅春・大久手計画工房、農山漁村文化協会、2003.9.
- 3) 「まち歩き」をしかける コミュニティ・ツーリズムの手ほどき、茶谷幸治、学芸出版社、2012.8.
- 4) コミュニティデザインの時代 自分たちで「まち」をつくる、山崎亮、中央公論新社、2012.9.

Support of community development in Minami-ku, Kumamoto city
— focusing on workshop for making the framework of community development —

Naoto TANAKA and Keisuke IWATA

Kumamoto city consists from five divisions from 1st April in 2012. Authers are concerned with the project for suporting of ommunity development in Minami-ku, Kumamoto sity. The request from Minami-ku was using workshop method in this process for various participation. The aim of this paper is report of our action research approach of community development in Minami-ku under the cooperation between local collectivities and inhabitants. We described about our framework for suport of community development, the process of this community development and consensus building between local collectivities and inhabitants.